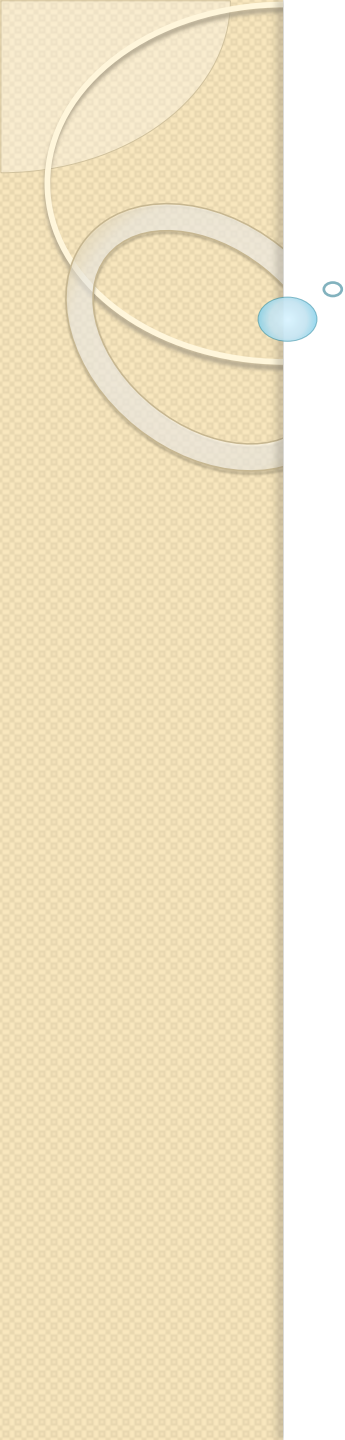




移植希望患者に対する透析施設看護師の取り組み

一般財団法人 筑波麓仁会 筑波学園病院 看護部¹ 診療部²
○鎌田みさき¹ 檜原瑞希¹ 布目昌恵¹ 久家久代¹
篠崎有希² 加瀬田幸司² 高田健治²

〈はじめに〉

- 献腎移植において1万2000人の登録者に対し、移植に至る患者は240名と年間2%弱と非常に少ない.
- ドナー発生の際には、短時間に手術決定の判断が求められることから、日頃からの準備が必要となる.
- 透析施設看護師として、やっと巡ってきたこの機会に、患者が慌てず速やかに移植に望めるよう関わることが重要である.
- 当院では毎年数名の希望者がいたが、移植施設での定期受診に向けた関わりのみになっていた.
- 移植待機者がドナー発生の際、移植の決断ができず、辞退した症例を経験した. これを機に移植に向けた取り組みの見直しを図ったので報告する.

〈取り組みのきっかけとなった症例〉

- 透析歴36年の男性。腎癌の既往あり。
- 献腎移植登録17年目、移植候補者になったとの連絡があった。
- しかし
 - 移植後のがん再発への不安が強くなったこと
 - 現時点で大きな問題なく透析ができている透析継続か移植に踏み出すかで迷いが生じた。
結果、移植を辞退した。



看護師として患者が移植を決断できる関わりができていない。
移植チームとしての取り組みの見直しが必要と考えた。

〈方法〉

①移植コーディネーターとの連携を図る

- ・患者に必要な正しい情報を提供する

②プロトコール作成

- ・透析室看護師全員で移植の情報、流れを理解する

③スタッフ全員で移植に向けての継続的な支援ができる体制

- ・プライマリー看護師が看護計画立案
- ・情報共有のためのカンファレンスを実施
- ・移植ワーキングチームが病棟会で進捗状況を報告

〈実際〉 ①移植コーディネーターとの連携

※移植施設とのつながりを持つ。

経験豊富なコーディネーターと連携し患者指導に必要な情報を得る。

- 移植外来受診までの流れとその際に必要な書類

受診から移植までの流れ

- 移植希望患者からの質問内容

（費用、対象年齢、平均待機期間、腎移植後の注意点等）

移植施設で使用されているパンフレット、術後の生活指導に使う。

冊子の提供を受け、内容を確認する。

➡ 移植に至るまでの患者に必要な支援のアドバイスを受けた。

〈実際〉 ②プロトコールを作成

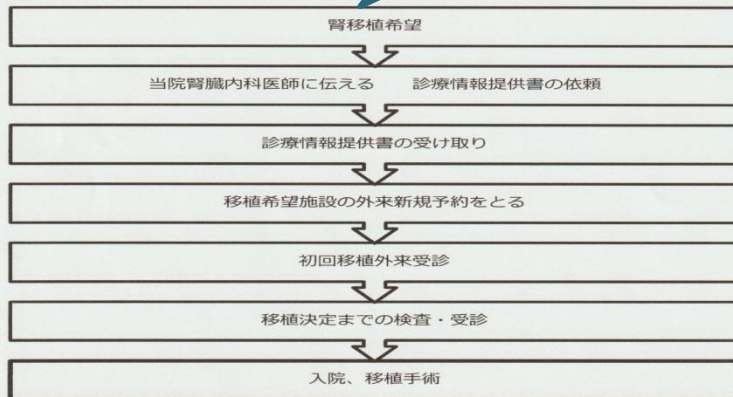
コーディネーターからのアドバイスを基にプロトコールを作成

【腎移植について】

〈茨城県内の移植施設〉

- ・筑波大学病院
- ・水戸医療センター

移植までの流れ



●筑波大学病院の場合

消化器外科 移植外来 高橋一広医師
移植コーディネーター 福田さん

[移植外来]

毎週火曜日・・・午後 15:30～ (初診)
毎月第 1、3 金曜日・・・午後 13:00～ (初診、再診)

移植までの一連の流れ

生体腎移植の入院
までの流れ

筑波大学病院の場合

献腎移植 受診時に必要な書類

① 新規受診

- ・診療情報提供書
- ・直近の胸部レントゲン
- ・心電図
- ・心エコー
- ・胃内視鏡
- ・胸腹 CT

上記を持参して受診。移植外科医、コーディネーターと面談し、献腎登録・移植に対する説明をうけたうえで登録手続きに進む。

② 定期受診

- ・診療情報提供書
- ・透析条件 (サマリー)
- ・血液データ
- ・透析経過表 (3 日分)
- ・直近の胸部レントゲン
- ・心電図
- ・心エコー
- ・胃内視鏡
- ・胸腹 CT

1 年に 1 回、誕生日に上記を持参して外来受診し、現在の体の状態や移植への気持ちに変わりがなければ確認していきます。

移植外来受診時の
必要書類

生体腎移植 入院までの流れ

① 初回受診 (必要書類は献腎に順する)

移植外科医、コーディネーターとの面談。今後のスケジュール説明

② 通院 ドナーの選定や面談を実施

③ 検査入院 (ドナー・レシピエント)

初診から 1～3 ヶ月後 (2 泊 3 日の予定) で全身の検査を実施

④術前通院

組織適合試験・腎機能検査の実施

⑤レシピエントの入院

⑥ドナーの入院

◎不明なことがありましたら、遠慮せずにご相談ください。

受診時の内容

筑波学園病院 腎移植ワーキングチーム

〈実際〉 ③ スタッフ全員で移植に向けての 継続的な支援ができる体制

《プライマリー看護師が看護計画立案》

- ・ 移植希望に至るまでの経緯や現在までの経過を基に移植に向けた計画を立案.

《看護師は計画を基に看護を実践》

- ・ プロトコールから現在の患者の状況を把握する.
- ・ パンフレットを使用し必要な情報提供、支援を行う.
- ・ 患者の声を吸い上げ記録に残し、必要時プライマリー看護師に報告.

《カンファレンスの実施》

- ・ 患者の意思や状況に変化があった際はその日のうちにカンファレンスを施行し、患者情報の共有や意見交換を行う.

《移植ワーキングチームからの情報提供》

- ・ 月1回、移植希望者全員の進捗状況をスタッフに報告し情報共有する.

〈結果〉

移植への取り組み開始後、生体腎3名が移植に至っている。

《看護師 から》

「プロトコールがあって流れがみえる、今の患者の状況が分かって関わりやすい」

「計画からどういう支援が必要かがわかった」

「現在の患者の不安がみえ、関わる上での注意点が分かった」との意見があった。

《患者から》

移植後の免疫抑制剤内服による影響、体重管理継続の必要性などの説明に対し

「移植に向けて心配なことが分かって良かった」

「腎移植の入院後の流れを聞いて、これからの段取りが分かって不安が減った」

待機中の患者が、ドナーとなる家族に対しての思いを表出する場面があり、

「看護師がいつも声をかけてくれたことで、自分の気持ちが整理でき安心した」

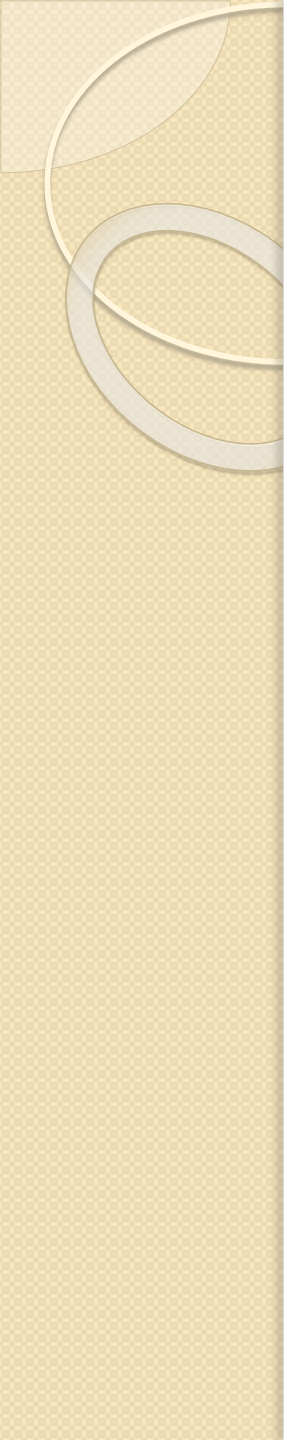
という声があった。

〈考察〉

- 移植施設のコーディネーターとの連携により、透析施設の看護師が情報や指導内容を理解して患者に提供できたことで、患者の正しい知識の取得に繋がった.
- プロトコールを作成により、看護師が、患者の今ある状況を理解し関われることで、そのタイミングに合わせた情報提供や支援を行えるようになった.
- プライマリー看護師が計画を立てることで、統一した看護実践ができ、継続的に関わることに繋がった.
- 日々揺れ動く患者の声を聞きながら、今ある患者の思いや不安を理解し、それに合わせて関わることで、患者の求める支援に繋がった.

〈結語〉

- 今回移植を17年間待ちながらも決断できず、辞退に至った症例を目の当たりにした。患者の移植に対する意思の確認や準備にむけた指導的役割を果たせていなかったことを痛感した。
- 透析看護師として、患者が移植に向け正しい知識をもてるよう情報提供し、万全な状態で移植に繋ぐことが必要である。
- そのためには今ある患者の不安や思いを理解し、スタッフ全員で情報共有しながら、その思いに合わせた支援を継続することが移植のサポートにおいて重要である。



茨城人工透析談話会 COI開示

筆頭発表者名： 鎌田みさき

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。